

原爆の日に愛知、山梨で一人芝居

「戦争孤児をテーマにした西村滋氏の作品を上演する「チーム・クレセント」を主宰。一人芝居「難」「キップ拜見」の2本立て公演を各地で行う

「難」では、白髪の老女と30代の母親の2役を演じられます。

年齢が全く違う役柄の「早変わり」に挑戦しました。一人芝居は、舞台上がれば誰もフォ

ローしてくれませんか。最初は、心臓が飛び出すかと思うほど緊張しました。

「難」には、母が死の直前に残した、平和を願う心と娘への深い愛情が描かれています。対

して「キップ拜見」は、いびつな運命に翻弄された男のストーリー。テイストの違う両作品で戦争孤児の光と影を表現できたと考えています。

——西村滋氏の作品を演じるきっかけは？

私が、複雑な人間関係に疲れて落ち込んでいた時です。西村先生の「お菓子放浪記」(全3

巻)を読み、価値観が一変するほどの衝撃を受けました。通り一遍のサクセスストーリーだけで終わらず、戦争孤児の悲惨な現実を直視し、決して風化させてはならないという強いメッセージ。読み進めていくうちに、涙が止まらなくなっちゃって……。すぐに、西村先生に手紙で上演を訴え、OKをもら

ったんです。

——女優だけでなくプロデューサーとして、企画・制作から携わっているそうですね。

お弁当や車両の手配、宣伝、劇場の確保からチケット販売に至るまで、あらゆることを自らの手で進めています。すると、芝居を終えた時の感動が、役者だけやっていった時と全く違う。拍手の一つ一つが心に染み入ります。女優と呼ばれる役者さんには、芝居だけならかなわないかもしれない。けれど、作品に懸ける思いは、誰にも負けません。

私は田舎育ちなので、将来は、演劇に縁がないような方にも、心から楽しんでもらえる作品を背負って、全国各地へと足を延ばしていきたいですね。

〈8月6日(火)に愛知県小牧市、9日(金)には山梨県北杜市で公演を行う。問〓チーム・クレセント、電話070(6470)0384〉

ヒューマン

HUMAN INTERVIEW



愛知県生まれ。大学在学中にミュージカル「レ・ミゼラブル」に衝撃を受け、女優を目指す。前進座付属養成所卒業後、テレビ・映画・CM・舞台などで活躍中。

片山 美穂さん

「戦争孤児」の真実を
風化させない——
その思いを伝えたい。

「チーム・クレセント(三日月)」は、西村滋氏の特徴である「三日月」のような細長い顔、に由来するという。「進むべき道を教えてくれた」西村氏の作品に出会えた日の喜びを、まるで

MEMO

昨日の出来事のように目を赤くして語る。何があっても「乗り越える派」と笑顔で自己分析。繰り返す口にする、出会った人への感謝の思いが、前進の原動力となっているに違いない。(坂)